令和８年度　村上市立神納小学校 学校経営方針

校長　　小池　満喜子

１　はじめに

目の前にいる子どもたちは、私たちと全く違う時代を生きる存在であり、未来をつくっていく存在です。私たちが受けてきた授業スタイルや当たり前だと思って行ってきた様々な活動を、同じように行っていくだけでは、子どもたちがこれからの時代に対応できる力を身に付けていくことは困難です。そのため、私たち教職員は先を見据えた教育活動をしなければなりません。これは過去の授業や取組を否定するものではありません。活動の目的と子どもの成長を考え、必要なところを変えていくことに躊躇せず、子どもたちや教職員、保護者、地域の方々が対話を重ね、時代が求める学校を創り子どもたちを育てていく使命が、私たちにはあるのです。

学校教育の主役は「子ども」です。その基盤には、子どもたちと私たち教職員の人権が最大限保障されていることが、大切だと考えます。子どもは、大人になる前の準備期間ではありません。一人一人が自分の考えを安心して表出できる環境や友達や教職員、地域の方々と一緒に学びを進められるような環境を整え、子どもたちの学びが保障されていることが大切です。授業中も休み時間も、ありのままの自分でいることができる安心感に包まれ、主役である子どもたちの考えが反映された教育活動を行うことで、自己肯定感を高め成就感や充実感に満ちた子どもたちを育てていきます。

２　教育目標　　いきいきと　あたたかく　たくましく

３　経営方針

(1)　経営の基軸

★子どもが主役となる授業、教育活動に。

★子どもも教職員もみんなが大切にされる。一人の例外もなく。

かん　がえることを楽しみ、頭をフル回転させよう
の　びのびと、安心して自己表出できる環境を整えよう
う　まくやろうとせず、信頼して任せてみよう

＊前述のとおり、学校教育の中心は子どもであることを再認識し、「主役」の捉えを教職員と共に考えていきます。そして、「人」として大切にされていることを子どもも教職員も実感できるためには、どのような言動が大切なのか、機会を逃さず話し合える職場でありたいと思います。

(2)　目指す学校像

・子どものアイディアや意見を生かし、やりたいことができる学校

・みんなの人権を大切にし、安心して自分の考えを表出できる学校

＊本来、学校は子どもたちの知的好奇心やいきいきとした笑顔で満ち溢れている場所であるはずです。考えることを楽しみ、友達や先生方と一緒に何かを成し遂げることが保障されている学校を目指します。そのためには、教職員も心身ともに健康でいることが大事です。オールラウンドプレーヤーはいません。人権感覚を磨きながら、「お互い様」の精神で業務に励むことができる職場を創っていきます。

４　経営の具体

(1)　今年度の重点

ア　探求的な学びの推進

・授業を資質・能力ベイスの単元デザインへ（個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実）

急激な社会の変化に伴い、正解主義や同調圧力への偏りからの脱却が指摘され学習内容の定着に視点を置いた「学習内容ベイス」から「資質・能力ベイス」への授業の転換が求められています。一斉授業の必要性も残しつつ、子どもが自己調整しながら進めていく学びの在り方や教師の役割を学校全体で共有し、チャレンジしていきます。

イ　個性の尊重

・様々な困り感を感じている児童の情報共有、組織対応

これまでの学校の当たり前に固執することなく、一人一人の多様性を大切にした教育を進めていきます。平等や公平性を考慮した様々な方法が、全ての子どもたちに合致するとは限りません。その視点を大切にし、困り感を感じている子どもを分かろうと努め、教職員全員で対応します。教職員が発する言葉の重みを自覚し、子どもの行動等の背景にも思いを馳せながら、支援します。

ウ　心身の安全・安心

・援助希求力の育成

「援助希求」とは、悩みを誰かに話したり助けてほしいと求めたりすることです。大人はそのような行動をしてほしいと考えていますが、周りの大人や友達に援助希求できる子どもばかりではありません。それを受け止めて支えることのできる力や関係性も大切なのです。「ＳＯＳの出し方に関する授業」や「考え、議論する道徳」などの学習を実施し、子どもたちの援助希求力の育成とそれを支える力の向上に努めていきます。

(2)　家庭や地域との連携・協働

諸課題の解決のためには、学校と家庭や地域の連携が欠かせません。保護者及び学校運営協議会を中心とした「協働」という双方向の関係をつくっていきます。

特に、授業や学校行事などの具体的な場面において、学習サポーターの活用や地域に向けた発信を積極的に行い、家庭や地域の要請に応えることできるようにすると共に、何でも報告・相談できる「開かれた学校」を目指していきます。

５　働き方改革

(1)　教職員が、「子どもが主役の授業」づくりのために十分な時間を確保できるよう、校務支援システムの効果的な利活用と放課後の業務時間の確保に務めます。学年・学級便りの発行は、緊急時以外は必要最小限に留め、子どもたちの様子を伝えていきます。

(2)　教職員の笑顔が、子どもの笑顔につながります。教職員の心身の健康を大切にし、休暇等の取りやすい職場環境に務めます。

＊　これまでの教育活動に、大幅な変更はありません。今年度、特に重点的に教職員が意識することを中心に記しました。